

旧年中は、弊社商品をご愛用いただきまして誠にありがとうございました。  
本年も界面活性剤をはじめとした管理資材や技術力で、  
ターフメンテナンスのサポートに努めてまいりますので  
より一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



# 1月・2月の管理ポイント



液肥とのタンクミックスに

## グリーンシナジー

近年は非常に乾燥した冬が続いています。冬の乾燥害は春や夏に比べて目立たないため軽視されがちですが、冬の乾燥により発生した撥水性土壌はトップシーズンにドライスポットが発生する最大の原因になっています。また冬の乾燥により、春のコウライの立ち上がりが遅くなることも問題になっています。

グリーンシナジーは様々な資材と相性がよく、タンクミックスしやすい界面活性剤です。肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に根圏の隅々まで行き渡ることによって利用効率が上がり肥料ムラを防ぎます。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。冬季にも定期的な予防散布による乾燥対策を行いましょう。

使用量：1~2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：100ml~1ℓ/m<sup>2</sup> 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

芝生の耐乾性  
耐寒性を高めましょう

## プランツコート

プランツコートで茎葉部をコーティングすることで、冬の乾燥害や霜によるダメージを軽減することが出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

散布薬量：1ml/m<sup>2</sup> 散布水量：100~200ml/m<sup>2</sup>

自然な色調の着色剤

## カラーメイトNEO M・D

カラーメイトNEOは、季節感を重視した自然な色調に仕上がる着色剤です。耐光性の高い顔料の粒子が鮮やかな緑色を演出し、耐水性の高い樹脂が色落ちを軽減します。色調の好みや目的によりM(明るい緑)とD(暗い緑)の2色から選ぶことが出来ます。地温・葉温を上昇させることにより、春季の立ち上がりを促進します。

使用量：2ml/m<sup>2</sup> 希釈倍率：50~100倍 散布水量：100~200ml/m<sup>2</sup>

冬季のサッチの除去  
土壤微生物の健全化

## サッチ・マネージャーW

ウィンター

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低温期でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。

使用量：グリーン.0.25~0.5g/m<sup>2</sup> 散布水量0.2~0.5ℓ/m<sup>2</sup>

池の水をきれいなブルーに

## ワラーブルーL

池がきれいなブルーになりコースの景観が良くなります。ワラーブルーLに含まれる2種類の色素で、水生植物(アオコなど)の光合成に必要な光(430nm、630nm)を遮り、増殖を抑えます。増殖が始まる前からの使用が効果的です。安全性の高い食用色素を使用しているため、着色した池の水を芝生への散水や薬剤散布にも利用できます。

使用量：500ml/水500トン

池の水質改善に

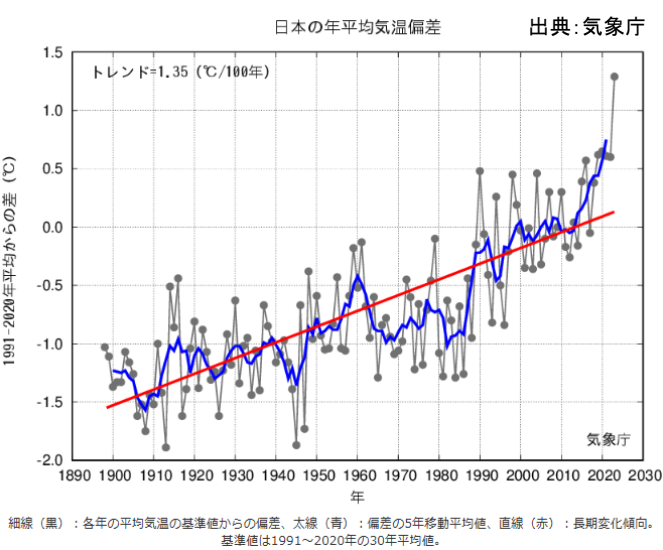
## セラクリーン

セラクリーンは、池に散布することで水中の悪臭原因物質を吸着し拡散を防ぎます。またカルシウム等のミネラル分をゆっくりと放出して水質の悪化(酸性化)を防ぐことで、池の水質浄化に優れた効果を発揮します。即効性の粉タイプと遅効性の顆粒タイプがあります。気温が低く微生物やアオコなどの活性が低い冬の間から、池の水質改善を行いましょう。池の掃除後の使用も効果的です。

使用量：5~10袋(100~200kg)/1,000m<sup>2</sup> 5~10袋(100~200kg)/水1,000トン

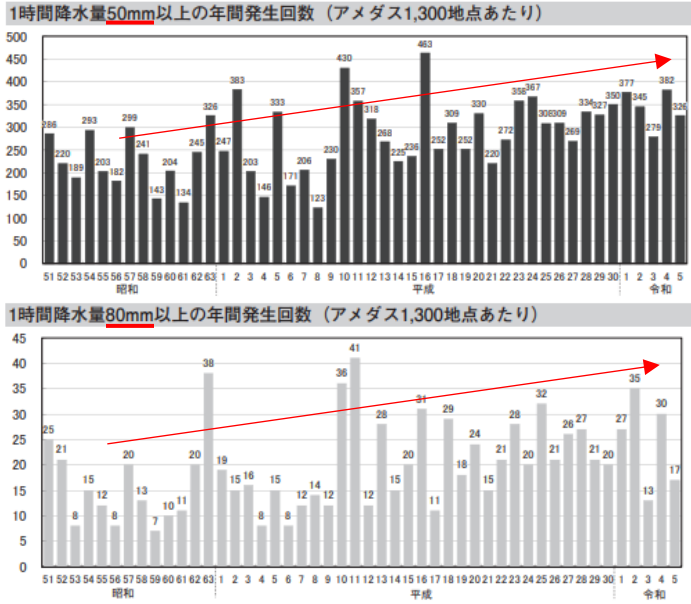
近年、異常気象による自然災害の発生が多くなっており、ゴルフ場でもその被害は無視できません。今回は、過去の気象条件や災害数などを、気象庁、国土交通省のデータを元に振り返ります。

## 日本の平均気温



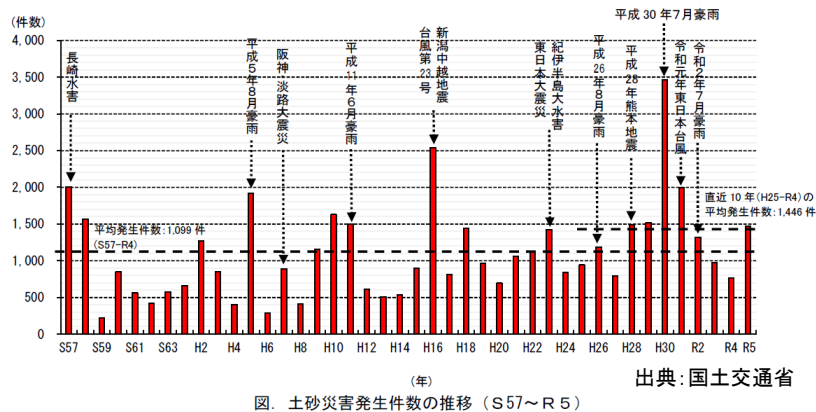
左図は日本における、30年間(1991年~2020年)の平均気温と各年の平均気温との差を示したものです。年々気温は上昇しており、2015年ごろから30年平均気温を上回る勢いで上昇しております。2024年も記録的な暑さが生じており、グリーンの壊滅的な被害が報告されています。

## 日本の降水発生回数



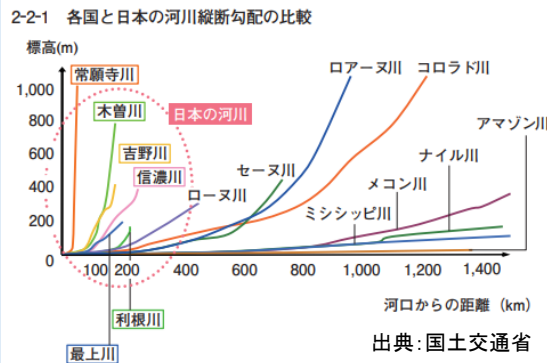
上図は1時間あたりの降水量の年間発生数を示したものです。降水発生回数は年々増加傾向にあり、降水量も増加傾向にあります。2024年では、台風10号や9月の豪雨により農作物への悪影響や土砂災害が発生しました。

## 土砂災害の発生件数



土砂災害の発生回数も近年増加傾向にあり、ゴルフ場でも道路やコースの一部が崩れてしまうなどの被害がありました。

## 日本の河川は...



世界的にみると、日本の河川は長さに対して急勾配で流れるため、大雨により大量の水が勢いよく流れやすくなり、土砂災害などの被害につながりやすいのです。

昨今の異常気象のニュースは毎年流れており、その被害も大きくなっているように感じます。猛暑による芝生への高温ストレス、大雨による水ストレスは今後もますます大きな問題となっていくでしょう。グリーンの水管理、サッチ管理を十分に行い、これら環境ストレスに備えましょう。